

ユニークな
地質系博物館
(14)

大船渡市立博物館

奥山(楠瀬)康子¹⁾

岩手県の東半分を占める北上山地は、日本の地質学の曙の時代から多くの研究がなされ、特に大船渡市やその周辺は日本の古生層の標準とも言える、地質学的に重要な地域です。この地域は今でも、古生代各時代のサンゴ、腕足類、三葉虫などの化石を豊富に産し、プロからアマチュアの化石マニアに至る多くの人々をひきつけています。ここは陸中海岸国立公園の一部で、「リアス式海岸」で知られる景勝の地でもあります。大船渡市立博物館は、三陸観光のスポットの1つ碁石海岸の高台に、1982年新築・開館しました(写真1)。この博物館をこのコーナーで紹介するのは、同館が「大船渡 その海と大地」というテーマのもとに、展示の大きな部分を南部北上山地の地質学的な歴史の解説にあてているからです。

同館の見学は、エントランスホール左手の映像展

示室から始まります。ここでは、大船渡の大地と海の歴史と、海に生きる人々の現在という展示テーマを、三面マルチスライドで紹介します。

エントランスホールとひと続きの地質展示室は、大船渡市周辺の南部北上山地の地史を、シルル紀層の堆積、石炭紀とペルム紀のサンゴ礁の発達した浅海、そして白亜紀の地殻変動という、南部北上山地の地史の上で重要な3つの時期に焦点をおいて解説しています。大船渡市の北西部には、今から約4億2000万年前のシルル紀の地層が分布し、これは1980年に岐阜県からオルドビス紀とされる化石が報告されるまでは日本最古の地層でした。南部北上山地の石炭紀とペルム紀の地層は、化石に富む石灰岩層が発達することで知られており、資源としても大きな役割をはたしています。そして白亜紀前紀の地殻変動は、南部北上山地の海の時代、すなわち地



写真1 碁石海岸を空から望む。中央が大船渡市立博物館。(大船渡市立博物館ガイドブックより)

1) 地質調査所 地質標本館

キーワード：岩手県，大船渡市，博物館，北上山地，古生層，化石，碁石海岸



写真2 地質展示室全景。露頭レプリカは手前より、水上花崗岩と不整合に重なりとされるシルル紀砂岩層、ペルム紀坂本沢層石灰岩、そして大船渡層群の砂泥互層。（大船渡市立博物館提供）

層の推積が続いた時代の終了を告げるものです。展示室には、この3つの時期の地層が露出する市内3カ所の露頭から作成されたレプリカが、天井いっぱいになり立ち並んでいます(写真2)。露頭のレプリカに隣接した展示台には、壁一面のガラス窓からの自然光のもと、化石を中心とする多数の標本が並べられています。化石にもとづく生態復元図が展示室のレプリカの脇に掲げられており、また映像展示室でも見ることができます。シルル紀のサンゴ類のような小型の標本は、ひとつひとつループ付きのケースに納められていて、のぞきこんで見ることができます(写真3)。展示台の下も引き出し式の標本ケースになっており、自由に見ることができます。このように同館の地質の展示は、標本が見学者に大変近いところにある点が特徴といえます。開放的な展示は、同館が市立科学博物館として設立された1955年以來の、長年にわたる収集・研究活動に支えられてはじめて可能であったと思われませんが、それにしても展示の維持は、かなり神経をつかうことではないかと察せられます。

展示されている化石の標本はかなり質が高く、観察しやすいよう磨かれたり浮き出し処理してあるものもあります。質の高い展示は学芸員のレベルの高い活動に支えられてはじめて可能ですが、同館は昨年の5月に新種のウミユリ化石を報告するなど、



写真3 化石を中心とする展示標本。小型の標本が多いが、見やすいように数々の工夫がなされている。（大船渡市立博物館提供）

学術的にも評価される活動を行っていることで、地質学の世界ではよく知られております。北上山地の古生層の研究は、基本的な層序や地質体としての起源についてここ10年間に大きな進歩をとげています。その成果が今後どのように展示の中にとり入れられていくのか、楽しみです。

展示室の残り半分は、漁法の歴史や船霊信仰など民俗の展示にあてられ、それもなかなか見ごたえがあります(写真4)。民俗展示室の奥の一角には、歴史時代からの津波と大船渡市での被害についての展示があります。紹介してきた展示は子供にはやや難

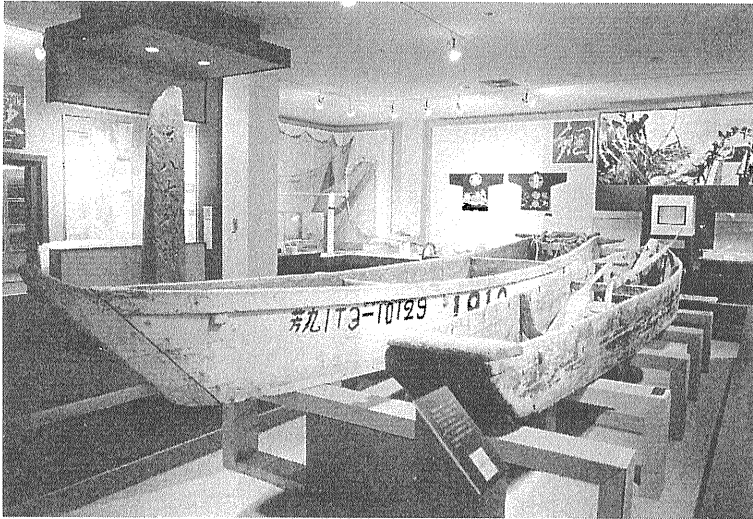


写真4 民俗展示室。中央に木舟，奥に漁網と大漁の祝い着の展示がみえる。(大船渡市立博物館提供)

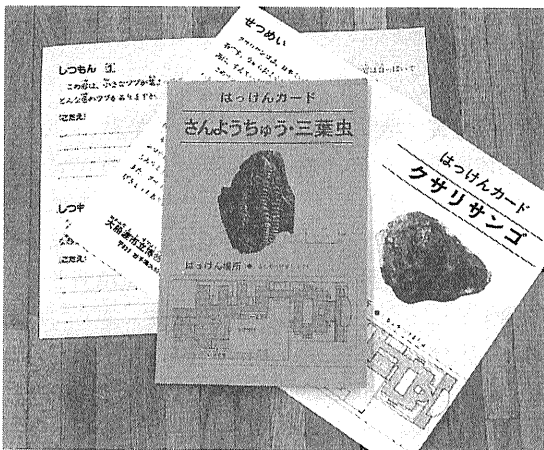


写真5 「はっけんカード」。タイトルに記したものを展示の中からさがす。開いた内側には、観察の要点が、館からの質問の形で記される。

しい内容ですが，同館ではそれをおぎなう試みとして小学校中学年位のレベルの「はっけんカード」を入り口におき，少しでも子供たちが展示と向きあうよう工夫しています(写真5)。展示室の奥は実習室になっていて，化石や岩石の薄片をおいた顕微鏡などが設置されています。こういった設備によって実習が手軽に出来ることも，初学者にとっては便利でしょう。

結論として同館は，最初にテーマを絞ることで成功したということもできそうです。この点は小規模な博物館の設計にあたって参考になると思われます。

大船渡市立博物館

〒022 岩手県大船渡市末町字大浜221-86

Tel 0192 (29) 2161

開館時間：午前9時～午後4時30分

(受付は4時まで)

休館日：月曜日，国民の祝日，年末(12月28日～1月4日)，資料整理日(2月1日～7日)

入館料：大人200円，高校生150円，小・中学生100円，30人以上の団体は各1人50円引き。

交通：JR大船渡線利用の上，碁石海岸行バス(岩手県交通)乗換，碁石海岸下車，徒歩1分。

OKUYAMA-KUSUNOSE Yasuko (1996): Geological museums in Japan 14, "Ofunato City Museum".

〈受付：1995年11月16日〉